



トピックス…①

EU農産物の短期市場見通し

— SHORT-TERM OUTLOOK

for EU agricultural markets in 2022 —

2022年10月5日に公表されたEU農産物の短期市場見通しは、EU諸国の多くの地域に影響を及ぼした暑く乾燥した天候、生産資材の高騰と需給ひっ迫、将来の作柄への影響が懸念されるウクライナ紛争によるエネルギー価格の高騰、また消費者の購買行動に影響を与える可能性が高い食料価格の上昇等を踏まえている。さらに、ウクライナ産の農産物を生産、貯蔵、輸出する能力など、ウクライナ情勢に関連した不確実性を含んでいる。

1. 夏の異常気象の影響

EUの2022年夏の気象は、記録的な暑さと乾燥による歴史上最も厳しい夏の一つであった。欧州委員会共同研究センター（JRC：Joint Research Centre）の複合干ばつ指標（Combined Drought Indicator）によると、2022年9月初旬時点で欧州地域の33%が警戒レベル、26%が警報レベルにあった。いくつかの国では灌漑のための水の使用が制限され、一部の地域では貯水池のレベルが非常に低いため、畑の灌漑が不可能であった。夏の作物、とくに穀物トウモロコシ、大豆、ヒマワリの収穫量に大きな影響がでている。

干ばつは、EUのほとんどの地域、とくにスペイン、フランス、イタリア中部と北部、ドイツ中部、ハンガリーで観察され、夏の穀物の成長と開花に影響を与え、収量が低下した。牧草地は、ほとんどの欧州地域で暑熱ストレスにさらされており、とくに西ヨーロッパと中央ヨーロッパでは乾燥気候に影響された。さらに、暑熱ストレスが家畜の生産性低下の一因となった。

2. ウクライナ紛争の影響

世界的な穀倉地帯を巻き込んだウクライナ紛争は、EUにとって重要な農産物の生産・輸出国であるウクライナにおける不確実性と経済的影響を目に見えるような形にし、より大きな懸念材料になっている。現時点では、この紛争の最も顕著な影響はエネルギー市場、とくに天然ガスの供給に生じている。EUにおける天然ガスの価格は、2022年夏に過去最高水準に達し、食料サプライチェーンのコスト増加につながり、インフレをさらに煽った。

エネルギー価格の高騰に関連して、農業が直面するもう一つの大きな問題は、肥料産業がアンモニアやその他の窒素製品を生産するために天然ガスを必要としていることから、その価格が高すぎると生産を削減または停止するため、来シーズンの肥料の供給と価格が懸念されることである。窒素肥料の生産能力の低下は、作物生産だけでなく、食品加工部門にも影響する。窒素肥料の製造過程で産出される副産物には、飲料および食品の製造工程で使用されるCO₂が含まれるからである。

2022年7月27日の国連、トルコ、ウクライナ、ロシアによる黒海穀物協定の署名と、ウクライナ産の穀物、家畜飼料、肥料、人道支援のための「EU連帯レーン」の機能により、国際価格への圧力が緩和された。これらは、進行中の紛争の中でウクライナによる穀物輸出の再開を可能にした。「EU連帯レーン」を通じた貿易は依然として重要であり、追加的なインフラ投資がなくとも、物量の上限はほぼ達成される。5月から9月末までに、約1,250万トンの穀物、油糧種子、および関連製品が「EU連帯レーン」を通じて輸送されたと言われている。黒海穀物協定は120日間で失効するが、当事者の誰かが反対しない限り自動的に延長される。しかし、同協定の延長については、「EU連帯レーン」の対抗策として穀物の輸出のみが許可されており、いかなる種類の輸入も許可しないという不確実性が依然としてある。

農業分野以外でも、ウクライナ紛争はEUの経済成長予測に打撃を与え続けており、2023年の実質GDP成長率の見直しには不確実性がある。ユーロ圏のインフレ率は、2022年も8.1%と高い水準を維持し、2023年も同傾向が続くと予想されている。とくに食料インフレ率は8月に14%の水準に達し、エネルギーに次いで2番目のインフレ要因となり、とくにパン、牛乳、卵、チーズなど必需品や油脂の価格に影響を与えた。

農産物の生産者物価に対する上昇圧力は、ウクライナ紛争が将来どのように展開するかという継続的な不確実性と、そのエネルギーの価格と供給への影響によって、短期的には緩和されないことが予想される。これらは、食料サプライチェーン全体（電気、加工、包装、輸送、冷却、暖房など）を通じて必然的にコスト上昇圧力となり、すべての企業、とくに中小企業に大きな困難をもたらしている。

農産物の生産者物価は、夏にみられた一次産品価格の下落にもかかわらず、引き続き消費者物価の高騰を牽引し、歴史的に高い水準を維持するとみられる。農産物の生産者は、営業利益率を維持したい加工業者と流通業者の二重の圧力にさらされており、消費者は食料需要の減少要因となる家計費の上昇に直面している。食料需要の減少は、今後数カ月間にわたり、いくつかの食品部門で

すでに予想されている。可処分所得の維持のための消費者嗜好のさらなる変化によって、店頭購買の増加とフードサービス利用の減少、ブランド製品よりもプライベート製品の購入が選択されることが予想される。

世界レベルでの米ドル高は、ユーロの記録的な下落を引き起こした。これはEUの輸出競争力にプラスの影響を与える可能性もあるが、ユーロ安で輸出価格が安くなる反面、石油や天然ガスなどのエネルギー製品だけでなく、飼料や肥料など農業生産資材のより高価な輸入を意味する。また、世界的な景気後退の懸念と米ドル高は原油価格を引き下げる要因となっているが、OPEC+産油諸国は石油生産を削減し、原油価格を再び100ドル/バレルに引き上げることを計画している（2022年10月時点）。

3. 農産物市場の現状と展望

(1) 畑作物について

EU諸国では、干ばつと、とくにリンとカリの施用量の低下に結びつく肥料価格の高騰が組み合わさり、2022/23年の収穫量の減少を引き起こした。具体的には、2022/23年の穀物総生産量は前年比で7.8%減少すると予測されており、トウモロコシは最大で23.7%の減少が見込まれている。このような状況の中、2021/22年の最終在庫の増加により、2022/23年の穀物輸出は依然として成長（6.5%増）し、世界の食料安全保障に貢献し続ける可能性がある。

油糧種子については、価格の高騰と、特定作物を休耕地で栽培することが一時的に許可されることを考慮すると、栽培面積は過去最高に達すると予想される。しかし、ヒマワリと大豆の収量は低く、油糧種子の総生産量は前年比7.5%の増加にすぎない。EUの砂糖価格は、2017年10月のクォータ廃止以来の記録的な水準に達したが、砂糖生産は暑く乾燥した夏のために6.9%減少すると予想されている。一方、タンパク質作物の生産量は、収量の増加により、前年比1.4%増加すると推定されている。

オリーブオイルの生産量が前年より25%減少すると予想されており、ギリシャを除くほぼすべての主要生産国で減少が見られる。ある程度までの生産の減少は輸入の増加によってカバーされる可能性は高いが、EUの輸出量はとくに価格に敏感な消費市場では減少する可能性がある。また、主要生産国における在庫の低迷と消費者価格の継続的な上昇は、EUの消費減少（9%減）につながる見込みである。

(2) 畜産物について

1) 牛乳・乳製品

夏の暑く乾燥した天候はバイオマスの形成を抑制し、飼料に使用される主要穀物の収量の低下に加えて、牧草の収量と品質を悪化させた。多くの酪農家が冬の貯蔵飼料の一部を夏の間すでに使用しており、これは1頭当たり生乳生産量の僅かな増加（0.4%）と乳牛飼養頭数の一層の減少（0.9%減）につながっている。生乳の成

分含有量（脂肪とタンパク質の両方）も悪影響を受ける可能性があり、乳製品製造の見通しをさらに悪化させる可能性がある。

すべての乳製品の中で、クリームを生産量のみが増加し、利用可能な脂肪の大部分が仕向けられた。冬期における粉乳の乾燥コストがさらに高くなると予想されれば、現在不足しているバターを増産する可能性もあるが、今のところバターの生産量は減少する見込みである。EU産粉乳の国際競争力は、価格の高騰で弱体化し、これが輸出を妨げている。したがって、ホエイと脱脂粉乳の国内使用量が増加しているにもかかわらず、粉乳生産が抑制されている。チーズについては、輸出と国内需要の両方が安定しており、高価格に牽引され、再び生乳仕向け先の選択肢になることが予想される。

2023年の年初、高い生産資材価格と乳製品需要の低迷に対処するために、農家にとって困難な状況が継続する可能性がある。通常の気象条件を仮定すると、1頭当たり生乳生産量はわずかに伸び（0.6%増）、飼養頭数の減少（0.8%減）を補う結果、2023年の生乳集荷量はわずかな減少（0.2%減）に止まる可能性がある。

2023年には、バター生産量のわずかな増加（0.5%増）が期待でき、2022年の輸出量を維持する見込みである。国際情勢の改善に伴い、競合製品の植物油価格が下がっても、バター価格はそれほど迅速に反応しない可能性があり、EU域内のバター使用量はわずかに減少することが予想されている。EU域内の消費が安定しているチーズの生産量はわずかに増加（0.6%増）する可能性があり、これは輸出の回復（0.4%増）を支えるだろう。

2) 食肉

EUの牛肉生産は、価格の高騰にもかかわらず、主に肉牛部門および酪農部門の構造調整によって、2022年に0.6%減少すると予想されている。域内価格が過去最高を記録した牛肉の輸出は、既存の高値市場への輸出見通しが良好であるにもかかわらず、全体では1%減少する見通しである。英国とブラジルからの牛肉輸入は増加傾向にある。

持続的な高い飼料価格とアフリカ豚コレラ（ASF）は、2022年に5%減少すると予想されているEUの豚肉生産の回復を妨げ続けている。中国の豚肉輸入はASF以前のレベルに戻りつつあるが、EUの豚肉価格は高いことから、一部のEU産豚肉は英国や他の海外諸国への輸出を選択している。

EUの家禽生産の伸びは、高い投入資材価格（とくに飼料とエネルギー）と高病原性鳥インフルエンザによって引き続き制限されている。EUの家禽価格が非常に高いことは、輸出競争力の低下をもたらしている。一方、ウクライナからの輸入製品に対する関税の停止は家禽の輸入にとっても有利である。